SAISEIKAI KYOTO HOSPITAL

れんけいだより vol.16 2021 Jun. 06

TOPICS

乳腺外科

地域との連携とともに

乳腺外科部長　安岡利恵

ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症の猛威は変異株の出現もあり、ワクチン接種は開始されましたが落ち着く兆しも見せず、患者様の診療をなさる上での先生方のご負担は大変なものと拝察します。

2021 年３月を持ちまして、長年、乙訓地域の検診はもとより当院乳腺外科を牽引してきた松田高幸医師の転勤に伴い、４月から常勤医師１名（安岡利恵）、非常勤医１名（井口英理佳）の診療体制になりました。外来診療を毎日行い、患者様や先生方のご希望にできるだけフットワーク軽くお応えしたいと思います。

今回は、最近の乳腺外科の話題や当院の取り組みをご紹介します。

乳癌の疫学と検診

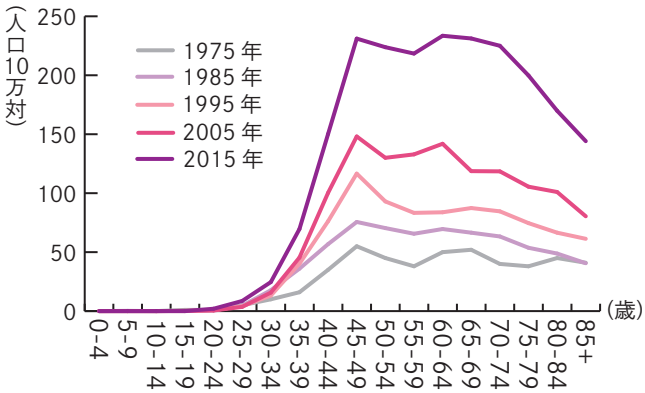
乳癌は女性が最も多く罹患する癌です。2019 年の罹患数は約 90,000 人、今や女性の９人に１人が乳癌に罹患するとされ増加の一途をたどっています（グラフ１）。女性自身が乳房の状態に日頃から関心をもち、乳房を意識して生活することを「ブレスト･アウェアネス」といい､乳癌の早期発見･診断・治療につながる、女性にとって非常に重要な生活習慣であると考えられています。

しかし一方で乳癌検診受診率は 50% に満たず、またコロナ禍でさらに落ち込み、安心・安全な検診の場を提供する必要があります。

当院健診センターでのマンモグラフィ検査も拡充し、健診センターから直接、乳腺外科診察の予約ができるようにしました。

グラフ１　年齢階級別罹患率（全国推計値）

[参考] 国立がん研究センターがん対策情報センター（がん登録・統計）より引用
※1995 年、1985 年は上皮内がん含む



遺伝性乳癌卵巣癌症候群
(Hereditary Breast Ovarian Cancer Syndrome、以下 HBOC)

HBOC は、「DNA 二本鎖切断の修復に関わる癌抑制遺伝子である BRCA1/2 遺伝子の生殖細胞系列の変異に起因する乳癌および卵巣癌をはじめとするがんの易罹患性症候群であり、常染色体優性遺伝形式を示す」と定義されています。本邦では女性乳癌の約5～10%が遺伝性乳癌で、その約 7

社会福祉法人 恩賜財団 済生会京都府病院
〒617-0814 長岡京市今里南平尾８番地
地域医療支援室
TEL 075-956-3825
FAX 075-956-3826
受付時間（原則）：平日 8:45 ～ 19:30（木曜日は 17:00 まで）

割が BRCA1/2 遺伝子変異によるものとも言われます。2020 年4月には、乳癌診療において待望であった

- HBOC が疑われる患者様に対する BRCA 遺伝子検査（表 1）
- HBOC 患者に対するリスク低減乳房切除術（乳房再建を含む）
- HBOC 患者に対するサーベイランスのための乳房 MRI 画像検査

が保険適応となり、乳癌の日常診療が大きく変革した 1 年となりました。

表 1　BRCA 遺伝子検査の対象者基準

発症、未発症に関わらず（本人以外に）すでに家系内で BRCA1 または / かつ BRCA2 の病的バリアント保持が確認されている
乳癌を発症しており，以下のいずれかに当てはまる - 45 歳以下の乳癌発症 - 60 歳以下のトリプルネガティブ乳癌発症 - 2 個以上の原発性乳癌発症 - 第 3 度近親者内に乳癌または卵巣癌発症者が 1 名以上がいる
卵巣癌、卵管癌および腹膜癌を発症
男性乳癌を発症
がん発症者で PARP 阻害薬に対するコンパニオン診断の適格基準を満たす場合腫瘍組織プロファイリング検査で、BRCA1 または / かつ BRCA2 の生殖細胞系列の病的バリアント保持が疑われる

さらに卵巣癌および乳癌発症のリスクの高さから（表2）、注意深くサーベイランスを継続していくことが少なくとも重要ですが、リスク低減乳房切除術や婦人科でリスク低減卵管卵巣摘出術（保険適応）を行うことで、乳癌や卵巣癌・卵管癌・腹膜癌などの発症リスクが下げられ、かつ生存率の改善につながります。

当院でも検査適応のある患者様にはご提案・検査を行い、術式や治療を考慮し京都府立医科大学附属病院などとの連携をとっています。

表 2　BRCA 遺伝子に病的バリアントを持つ場合のがん発症リスク

癌の種類	一般集団のリスク	悪性腫瘍のリスク	
		BRCA1 遺伝子	BRCA2 遺伝子
乳癌	>12 %	46 ～ 87 %	38 ～ 84 %
2 つめの原発性乳癌	5 年以内に 2 %	10 年以内に 21.1 % 70 歳までに 83 %	10 年以内に 10.8% 70 歳までに 62%
卵巣癌	1 ～ 2 %	39 ～ 63 %	16.5 ～ 27 %
男性乳癌	0.1 %	1.2 %	最大 8.9 %
前立腺癌	69 歳までに 6 %	65 歳までに 8.6 %	65 歳までに 15 % 生涯で 20 %
すい臓癌	0.50 %	1 ～ 3 %	2 ～ 7 %

乳房再建術

2021 年 5 月より京都府立医科大学附属病院形成外科の協力で、形成外科外来（森田大貴 医師）が開設され、当院での乳房再建術の選択肢が増えました。患者様のご希望をお聞きしながら、今まで以上に整容性に配慮して乳癌の根治に努力したいと思います。

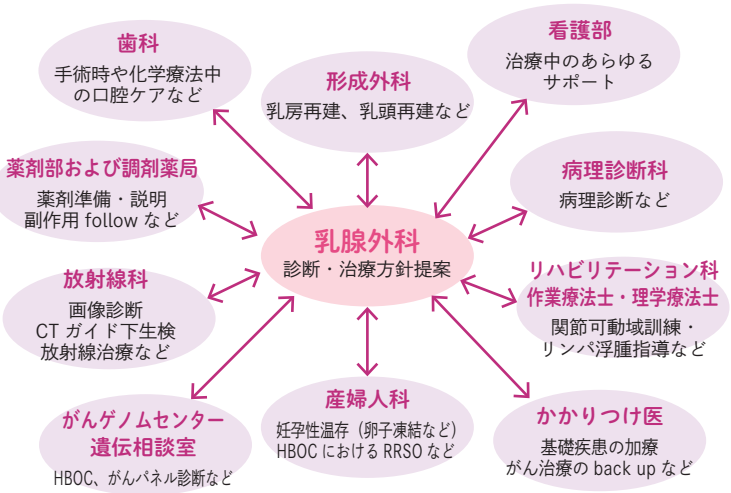
- 乳房切除術
- 乳房温存術
- 乳頭乳輪温存乳房全切除術
- 皮膚温存乳房全切除術

これらに自家組織や組織拡張器、インプラントなどを用いて再建を行います。

乳腺外科と連携

乳腺外科の治療においては、院内のみならず地域の先生方や地域調剤薬局との連携が非常に重要と考え、積極的に連携をお願いしています。

最近の取り組みとして、ホルモン感受性のある進行再発乳癌の治療薬である CDK4/6 阻害剤・アベマシクリブの継続には、副作用である下痢のコントロールが重要なため、調剤薬局から患者様へのテレフォンフォローアップをしていただき、当科にフィードバックしていただく取り組みを開始しました。



さいごに

乳腺外科は患者様のご希望も多岐にわたり、単独で診療・治療が完結する科ではありません。患者様に寄り添い、患者様が安心・安全に治療に取り組んでいただけるよう、今後ともご指導およびご協力の程何卒宜しくお願い申しあげます。